

歯を通じ子どもの成長見守る



レントゲン写真の撮影をする池尾裕子先生。正確に治療を進めるために、レントゲン写真は欠かせません



「口の中で変な感じはしないかな」。池尾元三朗先生が歯のかみ合わせを良くするための器具を口に入れて調整します＝これも奈良市の池尾小児歯科で



小児歯科医

【ある土曜日のスケジュール】

午前9時	開院の準備。歯科助手といっしょに治療のための器具などをそろえる
9時30分	午前の診察。学校が休みの子どもたちを中心に、子どもら30人近くの治療に当たります
午後12時15分	休み時間
1時30分	午後からは、治療が難しい乳児からむし歯に悩む大人まで、20人ほどを診察
5時	閉院。後かたづけ、資料の整理など

子どものむし歯の治療は口の中での環境をよりよくするための仕事をすることが小児歯科医。歯の治療だけでなく、日ごろの食生活や姿勢など、小学生らの体全体の健康についてアドバイスする大切な仕事です。

(清田 哲)

奈良市の近鉄奈良駅の近くにある池尾小児歯科。四月初旬の土曜日の午前中、診察室をのぞくと、池尾元三朗先生と池尾裕子先生が子どもたちの歯の治療に当たっていました。

三台の診察室をフル回転させて、順番にむし歯の治療

かみ合わせの治療が増える

むし歯は減り体や生活全体をみる

療や定期健診、歯のかみ合わせのチェックなど、いっしょに治療を進めていきます。中心は小学生たちですが、赤ちゃんから八十歳を越えるお年寄りまで、幅広い年代を診察します。親知らずをぬくのを嫌がる子どもには「ほくの治療の経験からすると、このま

まほらうつおへん、これか



治療には歯をはずしたり、つまんだものをかき出したりする道具が並べられます。いつもきれいに清潔にすることを心がけています

「自分の子と思って時には厳しく」

診察室に入るときは深刻そうだった子どもたちも、出るときには表情がゆるんでいきます。森本裕樹くん四

年、は定期健診などで十年近く通っています。「歯についていろいろ教えてくれるので、安心して治療を受けられることができます」

一九八三年に開院したときは、仕事の多くはむし歯の治療でした。「多いときで毎月、百人もの新しい患者が来て、次々と治療をしていった」と先生二人はふり返ります。



歯のかみ合わせを良くするために歯にかぶせる器具の調整など自分で行ないます

【歯科医師になるには】
▽歯科大学や大学の歯学部で6年間治療法などを勉強した後、歯科医師国家試験に合格する必要があります。今年2月の試験では、受験者数3465人に対して、合格者が2408人で、合格率は69.5%でした。
▽厚生労働省の調べによると、2008年12月末現在で、全国で働いている歯科医師の数はおよそ9万9430人。1988年は7万570人、98年が8万8060人と毎年増え続けています。

お父さんとお母さんが大学で物理や化学を教えているため、小さいころから理科に興味を持って元三朗先生。親せきには病院を

経営する医師のいるため、高校生のころから医学の道に進むことを本格的に考え出したそうです。知り合いの先生のすすめなどもあって、歯科医師を目指して大学で勉強してきました

大学院を卒業後、すぐに夫婦で開業しました。毎回歯みがきの指導をするとい



壁には地図などをはって、子どももリラックスできるように工夫しています

「歯のもののだけでなくその子の体や生活全体についてみています。おいしく物を食べて、元気を毎日過ごすために、かみ合わせは大事になってくる」と裕子先生。

この日、午前中だけで診察したのは三十人近く、奈良市内だけでなく、京都府や三重県など遠くから訪れる人もいます。

学生には「医師になっても勉強が続きません。子ども

のうちに、幅広い分野に興味を持って、向上心を持ち続けることが大事です」とアドバイスします。

元三朗先生は奈良市内の小学校の校長のほか、全国の小児歯科の開業医が集まる団体「全国小児歯科開業医会」の会長も務めます。

「後に続く、若い医師たちを育てていくのも大切な仕事。小児歯科医として仕事を続ける大変さを知ってもらう一方で、将来を担う子どもたちにかかわってほしい喜びも感じてほしい」と

第4回 いつもありがとう 作文コンクール



文部科学省「子どもの居場所づくり」キャンペーン参加事業

言葉ではいえない家族への感謝の気持ちを作文に書いてみよう

■募集テーマ/いつもお世話になっている家族に対し、普段言葉ではなかなかいえない感謝の気持ちを作文に書いて応募してください。
例)「お母さんありがとう」「大好きなお父さんへ」「私のお兄ちゃん」...

■応募方法/400字詰め原稿用紙3枚まで。作品の裏に応募者の郵便番号・住所・氏名・電話番号・学校名(所在地・電話番号)・学年・年齢・当コンクールを知ったきっかけを明記してください。
◎作品は必ず自分で書いたもので、未発表のものに限ります。 ◎一人何点応募しても結構です。

■応募資格/全国の小学生
■応募締切/平成22年9月13日(月)必着
■応募宛先/〒354-0045 埼玉県入間郡三芳町上高1141-10 「いつもありがとう作文コンクール」事務局
■お問い合わせ/電話03-3545-5226 受付時間10時~18時(土・日・祝日を除く)
■入賞発表/平成22年11月26日(金)朝日小学生新聞紙上で発表

- 審査員(敬称略)
- あさの あつこ 作家
 - 尼子 順兵衛 漫画家
 - 森田 正光 気象予報士
 - 鈴木 弘行 シナノン株式会社 代表取締役社長
 - 下高原 拓 朝日小学生新聞
- 賞/◆最優秀賞.....1作品 賞状・副賞として図書カード 5万円分
◆シナノン賞.....1作品 賞状・副賞として図書カード 3万円分
◆朝日小学生新聞賞.....1作品 賞状・副賞として図書カード 3万円分
◆優秀賞.....低学年の部 3作品/高学年の部 3作品
賞状・副賞として図書カード 2万円分
◆入選.....低学年の部 7作品/高学年の部 7作品
賞状・副賞として図書カード 5万円分
- ◎上記受賞者と保護者を11月27日(土)東京で行われる表彰式にご招待します。
◆佳作.....低学年の部 10作品/高学年の部 10作品
賞状・副賞として図書カード 3万円分
◆団体賞.....5団体 賞状・副賞として図書カード 5万円分

主催:朝日学生新聞社 共催:シナノングループ
後援:文部科学省 朝日新聞社

※ご応募に関する注意事項、コンクールの審査結果に關する、応募作品に関する著作権、著作権等の権利は、主催者に帰属するものとします。それらも応募者等の目的でシナノングループ及び朝日学生新聞社の広告や印刷物、ホームページ等に使用していただく場合があります。※個人情報に関する注意事項/お客様からいただいた個人情報は、賞品の発送、シナノングループ及び朝日学生新聞社の広告宣伝等のための広告や印刷物、ホームページ等への応募作品の掲載のためにのみ利用させていただきます。また、当該業務の委託に必要な範囲で委託先に提供する場合を除き、個人情報をお客の承諾なく第三者に提供いたしません。

